

こだわりのHDDケータイ「W41T」開発者インタビュー（2/2）

[前のページ](#) | 1 | 2 |

オーディオプレーヤーとして必要なものを詰め込んだW41T

さて、HDDの話ばかりが長くなってしまったが、デザインコンセプトとなっているオーディオプレーヤーとしての部分にも、大きな力が注がれている。特に、ダブルモールド(二色成形)による透明感のあるフラットな外観は、苦勞した部分だ。「東芝の携帯電話としては初の試み」(東條氏)だったため、製造工程などでは困難もあったという。もっとも、技術陣の頑張りにより問題点は解消され、美しい端末が誕生した。

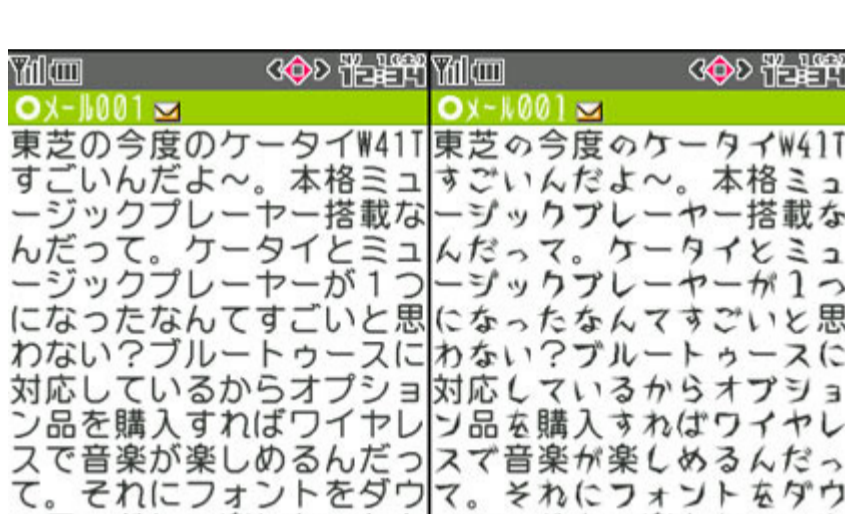
静電パッドキーも、「フラットな外観を実現するために欠かせなかった技術の1つ」と兵頭氏。やはり音楽ケータイのフラッグシップと位置づけられる製品だけに、「ボタンを用いた安っぽい外観にはしたくなかったので、オーディオプレーヤーでは一般的な静電パッドキーを採用した」(東條氏)という。この静電パッドキー、中央のキーを長押しするとミュージックプレーヤーの起動と終了が行え、短く押すと再生と一時停止ができる。左右のキーにもそれぞれ左を長押しすると巻き戻し、短く押すと曲戻しが割り当てられており、右を長押しすると早送り、短押しすると曲送りが行える。携帯電話を閉じた状態でもオーディオプレーヤーとしての機能は一通り利用できるようにしてあるわけだ。各ボタンにLEDが仕込まれているのもポイントの1つ。ただしセンサの上や下にLEDを配置することはできないため、センサの横から光を照射している。

内蔵しているステレオスピーカーは横出し式のものを搭載した。これは「音楽再生時の音質の良さを追求した結果であり、外観の平滑性を保つため」(東條氏)だった。その分厚さはかさんでいるが、オーディオプレーヤーとしては納得のいくものが作れたという。同様に、端末をクレードル上に斜めに立てかけるようにしたのも、充電中やPCとのデータ転送中などにも音楽再生ができるように、との配慮からだ。

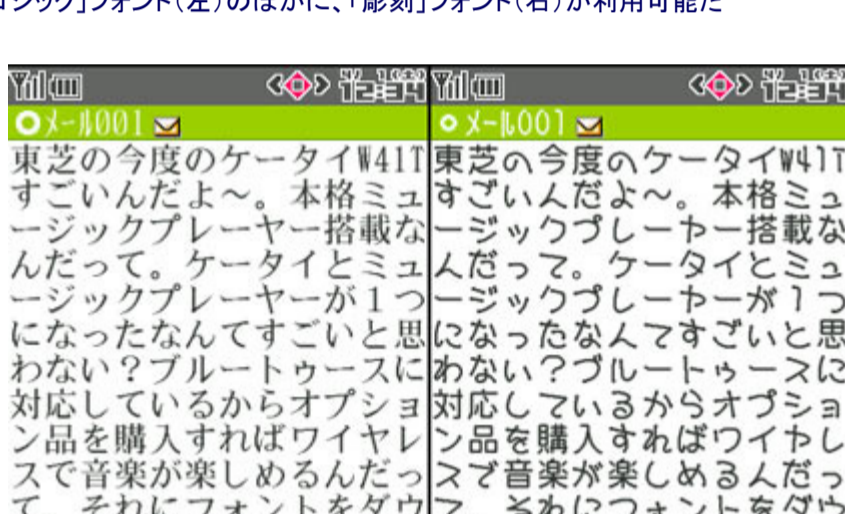
Bluetooth機能に、A2DPを独自拡張したプロファイルを用意したのも、デジタルデータの劣化を防ぎつつデータを転送したかったからだという。「独自拡張」の内容については非公開ということで聞けなかったが、同時に発表されたヤマハのスピーカーシステムNX-A01のBluetoothレシーバユニットなどとの連携も考慮してのことのようだ。

「着せ替え画面」などユニークな機能も楽しんでほしい

このように、オーディオプレーヤーとしてかなりハイスペックに作り込まれたW41Tだが、搭載されるソフトウェアにはなかなかユニークな機能もある。特に東芝がウリにしているのが「着せ替え画面機能」だ。例えば画面表示フォントとして、通常の丸ゴシックのほかに少々おどろおどろしい「彫刻」が使える。また、東芝製端末の専用サイト「Toshiba User Club Site」から「明朝体」「ポチ」「デジ文字」「ひよこ」といったフォントをダウンロードできるようになる予定だ。ランチャーメニューに「東芝犬」や「みつばち」といった画面を選び、がらりと雰囲気を変えてしまうこともできる。



標準搭載の「丸ゴシック」フォント(左)のほかに、「彫刻」フォント(右)が利用可能だ



「明朝体」フォント(左)と「ひよこ」フォント(右)のほか、「ポチ」や「デジ文字」といったオリジナルフォントが用意されており、「Toshiba User Club Site」からダウンロードできる



ランチャーメニューなどの画面も「Toshiba User Club Site」からダウンロードできるオリジナル画面でカスタマイズできる。これは他社製品にもある機能だが、イメージをがらりと変えられて楽しい

音楽ケータイだけあって、BGM再生中には壁紙に曲のタイトルやアーティスト名、再生時間などが表示できる。中にはLISMOのキャラクターであるリスが、曲に合わせて踊るユニークなFlash壁紙も用意されているなど、ちょっとした遊び心も隠されている。



BGM再生中に曲名やアーティスト名、再生時間などが表示される専用の壁紙も用意されている。左はLISMOのキャラクターが音に合わせてダンスする壁紙で、右が音に合わせてテニスボールがコートを行き来する壁紙だ

「とにかくHDDの搭載やオーディオプレーヤー機能がフィーチャーされがちだが、この「着せ替え画面」など使い勝手の部分にもぜひ注目してほしい」と東條氏は話した。

0.85インチHDDのスペック

仕様	0.85インチHDD	1.8インチHDD
型番	MK4001MTD	MK4007GAL
フォーマット容量	4G/バイト	40G/バイト
ディスク枚数	1	1
ヘッド数	2	2
シークタイム	平均16ミリ秒	平均15ミリ秒
回転数	3600rpm	4200rpm
データ転送速度(ホスト転送)	毎秒12.5M/バイト	毎秒100M/バイト(Ultra DMA)
電源仕様	3.0V	3.3V
外形寸法	24×32×5ミリ	54×78.5×5ミリ
重量	約9.5グラム	約51グラム
耐振動性(動作時)	19.6メートル毎秒毎秒(2G)	19.6メートル毎秒毎秒(2G)
耐振動性(非動作時)	49メートル毎秒毎秒(5G)	49メートル毎秒毎秒(5G)
耐衝撃性(動作時)	9807メートル毎秒毎秒(1000G)	4900メートル毎秒毎秒(500G)
耐衝撃性(非動作時)	19600メートル毎秒毎秒(2000G)	14700メートル毎秒毎秒(1500G)

東芝は1インチHDDを製造していないため、iPodや小型のノートPCなどに利用されている1.8インチHDDと比較してみた。耐振動性は同等ながら、耐衝撃性は動作時で2倍、非動作時でも1.25倍高められており、HDDといっても耐衝撃性はかなり高められている。データ転送速度は、内部の接続インターフェースがおそらくSDIOとなっている関係であり速くはない。そのうえ、W41Tに搭載されているUSBインターフェースはUSB 1.1相当なので、PCとのデータ転送には相当の時間がかかる点は注意が必要だ。

関連記事



ついに登場、4G/バイトHDD携帯——「W41T」

日本初となるHDD携帯がついに登場する。4G/バイトHDDを搭載したauの東芝製WIN7端末「W41T」だ。ワイヤレスヘッドフォンで音楽を楽しめるBluetooth機能も装備する。



「W41T」に搭載されたHDDの謎

KDDIから発表された「MUSIC-HDD」こと「W41T」は、携帯電話としては国内で初めて0.85インチの小型HDDを搭載したユニークな製品だ。



「欲しい携帯は必ずauにある」——春WIN7機種のポイント

WIN 7機種が一気に上ってきたauの春モデル。HDDケータイ、ワンセグケータイといった飛び道具入りモデルのほかにも、“戦略的”に機能を各機種に散らした。

“ギネス級”0.85インチHDDは携帯にも

東芝はHDD事業について、0.85インチなどの小型HDDに特化する方針を発表、小型HDDを搭載した各種製品のモックを展示した。注目は、デジカメや携帯電話への搭載だ。

KDDI、通期業績見通し上方修正——ARPU上昇

ツーカーを統合した移動体事業が好調なKDDIが、2005年度第3四半期の決算を発表。ツーカーからの同番移行は、年度内70万契約を見込む。ARPUも7000円に上方修正した。

関連リンク

[プレスリリース](#)

[前のページ](#) | 1 | 2 |